

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年9月30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890200017		
法人名	医療法人 佐々木胃腸科外科		
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 豊友館	ユニット名	—
所在地	〒319-1412 茨城県日立市折笠町560-2		
自己評価作成日	平成25年5月16日	評価結果 市町村受理日	平成25年9月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_021_kani=true&JigyosyoCd=0890200017-00&PrefCd=08&VersionCd=021
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年7月11日	評価確定日	平成25年9月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>介護必要になっても、「住み慣れた環境で、家族や親しい方に囲まれて、自分らしい生活を送られこと」その為に等施設では、地域医療と介護の両面から援助している。運営者と職員は施設の理念を共有し、自分での生活の継続性を大切に穏やかな雰囲気の中で、時間をすごしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>地域密着型サービスの特色である通い、泊まり、訪問サービスを利用者一人ひとりの生活リズムに合わせて提供しており、通いサービスは開始時間を限定することなく受け入れているほか、訪問サービスにおいても予定以外の緊急対応をすることにより、高齢者世帯や重篤な持病を抱えているケースでも在宅生活を継続することができるよう支援している。</p> <p>同一敷地内に運営母体の医療機関があり、医師が居住しているほか、職員の大半が近隣に居住していたり、利用者も以前から当該医療機関を利用したりして馴染みの関係を築ていおり、地域ぐるみで地元の高齢者を支える仕組みを確立している。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人ひとりが、利用者の気持ちに添ったサービスを提供しており、家族・地域との時間も大切に展開している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、玄関と居間に掲示するとともに、職員は月1回の会議や年1回の管理者との面談時に確認して共有を図り、利用者が地域の中で生活ができるよう実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のひとり暮らしの方や高齢者世帯の方が、気軽に来所し交流出来る雰囲気になっている。時々、地域の方々がボランティアやお茶を飲みに来られている。	日常的に近隣住民や元利用者が来訪し、自家栽培の野菜を分けてもらったり、利用者や昼食を摂ったりしている。 シルバーリハビリ体操や楽器演奏のボランティアを受け入れ、利用者と一緒に体を動かしたり、歌を歌ったりして交流を図っている。 利用者が貯金の出し入れが行えるように、地域の郵便局長が事業所から郵便局までの送迎をしてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方々を通じて、認知症状や行動について説明をし、理解していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月おきに開催している。会議内では、運営状況を報告するほか、委員からでた意見等を運営に反映させている。	運営推進会議は利用者の代表や家族等の代表、市職員、民生委員、地域住民、近隣の特別養護老人ホームの職員、県の看護協会の代表などで2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の心身の状況やサービスの内容を報告し、委員から出た意見や課題の改善に向けて話し合いをしている。 会議で出た意見を基に、災害時の備蓄品を改めて整備したり、近隣住民から災害時における井戸水提供の約束を得るなど、会議で出た意見等をサービスの向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外にも、地域密着型施設として認識し、連絡・報告・相談を密に行っている。	職員は利用者の要介護認定申請のため介護保険課へ出向いたり、認定調査員が訪問する際は家族等に代わって調査に立ち会うほか、市担当者から地域の高齢者人口の情報などを、協力関係を築くように取り組んでいる。 市の地域包括支援センターからは、利用者の紹介を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内は、自由に移動できるように配慮している。また、利用者の行動状況を、職員1人1人が把握し、ともに動くようにしている。	玄関と居間に身体拘束排除のポスターを掲げて職員の意識を高めているほか、事務所には職員がいつでも確認ができるように身体拘束をしないケアのマニュアルを用意している。 管理者は職員に実際のケアの関わりの中で、身体拘束の禁止事項を具体的に説明し、全職員で玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者、一人ひとりの気持ちを大切にサービス提供をしている。ケアカンファレンス・職員会議等には、虐待・拘束予防について職員と確認し合うことにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及びケアマネジャーは、権利擁護に関する制度理解に努め、必要性のある利用者・家族への支援が出来るようにしておく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、納得した上で契約を行っている。家族との連絡を大切にしており、必要時の理解と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見は、運営推進会議時に参加してもらいながら伺うこともあるが、通常は電話及び訪問などを行いながら、利用時の記録・連絡・報告などの書類にて行っている。また、日頃から気軽に相談できるように、声掛けを行っている。	職員は利用者からの意見や要望は、日々のケアの中で利用者から直接聞き取っている。「家族に見守られながら自宅で最期を迎えたい」との希望を受け、自宅での看取りに向けた訪問サービスが提供できるよう取り組んでいる。 家族等の要望は、職員が自宅を訪問して家族等と面談したり、連絡帳を活用したりして把握に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、月に一回の職員会議に参加している。また、職務中にも職員の意見を聞く機会を設け、運営に反映している。	管理者は月1回の会議において、職員から意見や提案を聞く機会を設けているほか、年1回職員との面談の時間を設け、利用者の薬や連絡帳の管理方法の改善を図るなど、出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの意見を聞き、就業規則にのっとり、前向きに業務に励めるような環境作りに努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修会には、勤務調整を行いながら、出来るだけ参加してもらっている。また、施設内研修については、年間研修計画を作成し、定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会や連絡会に参加してもらい、他の小規模多機能型施設との交流も行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境に慣れていただけるように、職員が出来るだけ傍にいられるようにしており、声掛けや話をいつでも聞くことが出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と連絡を密に行い、家族の困り事や要望等耳を傾けることが、出来るように電話や連絡帳を使って心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要としているサービスを利用者及び家族と話し合いながら、アセスメントを行い、他のサービス利用も含めたケアを行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者自身で行えることは行ってもらい、支援が必要なことを支援していくことを、利用者及び家族に説明しながら、暮らしをともに過ごしている。また、利用者同士での支えながら出来ることは、職員とともに進めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡帳での交流や訪問・電話等で話し合いながら、利用者の介護に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当施設での知人や家族との面会や、知人の電話の取次ぎや送迎時の近所の人との声かけなど行っている。	職員は入居時のアセスメントにおいて、利用者のこれまでの生活歴を把握するように努めている。 日常的に親戚や近隣住民が訪ねて来て利用者と楽しく歓談をしているほか、利用者は家族等と馴染みの店に買い物や外食に出かけている。 月1回馴染みの理容師が来訪して利用者を散髪している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の中に入り、お話やゲーム等を行い、良い雰囲気作りを努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自立となり利用を解約された独居の方でも、関係を大切にしながら、「困り事」の相談や支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は利用者との会話を通じ、毎日の利用者の体調や意向の把握に努めている。また、意向を言い表せない利用者には、表情や素振り等で利用者本位に検討している。	職員は日々把握した利用者一人ひとりの思いや意向を介護記録に記載して共有を図り、利用者本位のサービス提供に努めている。利用者の言葉にならない思いなどは、日々の支援の中で表情や態度から把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者から会話を通して聞いたり、家族から情報を聞いたり生活歴や生活環境及びサービス利用の経過等の把握を常にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファレンス等で、1人1人の状況を報告し把握している。変化があった場合には、その都度、連絡ノートに記録し回覧している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーは毎日の自宅訪問時に利用者及び家族等から意見や要望を聞き、現状に即した介護計画を見直している。職員は送迎時に家族等から利用者の様子や家族の等の予定などをきめ細かく聞き、介護計画に反映させている。モニタリングを毎月実施するとともに、介護計画は長期は12ヶ月毎、短期は6ヶ月毎に見直している。	介護計画は利用者や家族等の意向を基に、医師や介護支援専門員、職員で話し合って作成している。職員は毎月利用者の自宅を訪問し、利用者や家族等の生活に対する意向を確認するとともに、介護計画の効果をモニタリングしている。利用者や家族等の意向のほか、利用者の身心の状態の変化に合わせて介護計画を見直している。自宅で利用する「訪問サービス」と、事業所で利用する「通いサービス」並びに「宿泊サービス」を連動させながら介護計画を作成するとともに、自宅と事業所での生活が一体となるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個別記録を記入している。記録を基に申し送りを行い、実践や計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況に応じて、本人及び家族の希望を聞き、柔軟な支援サービスに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察・消防・民生委員の方々やボランティアの協力をいただき、利用者の生活を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調の変化や受診希望があれば、かかりつけ医に受診を行っている。定期受診は、原則的には家族が行っていただいているが、緊急を要するときなど出来ないときには、出来るだけ同行をしている。	かかりつけ医を変更することなく、必要に応じて納得が得られた医療機関の受診や、随時訪問歯科診療が受けられるよう支援している。 家族等が通院に付き添えない場合は職員が付き添い、受診結果は連絡帳を活用して家族等に報告している。 家族等と受診する場合には、職員は利用者の日頃の様子を文書などで医師に情報提供し、受診後は家族等から結果の報告を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に、現状を把握してもらうために、報告・相談を常に行っている。状態変化があった場合には、昼夜を問わず性格に状態を伝え、支援できるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は、家族・本人と話し合いを行い、病院関係者及びMSWとの連携を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに着いての定義を作成し、看取り介護の方針を全職員で共有している。また、看取り介護の方針に基づいた役割分担を担当者とともにきめている。看取り段階に入った場合は家族等の意見を反映した看取り計画書を作成し、段階に応じて看取り計画書を見直し、担当医や家族等、職員などの利用者を取り巻く必要が関係者で連携を図りながら支援している。	重度化した場合や看取り介護については、利用者や家族等の意向を確認し、同意を得ながら医師や看護師などの医療関係者と連携を図っている。 看取り介護に向けて職員で話し合い、役割分担表を含めたマニュアルを作成している。 利用者の希望を受け、同一法人の医師や看護師と連携を図りながら自宅での看取りも支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議や日々の申し送りを通し、対応の仕方を理解している。緊急時の対応については、家族の希望を聞き対応について同意書を作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・消火訓練を年2回行い、通報・消火・誘導が速やかに出来る様にしている。	火災及び地震災害を想定した避難訓練を年2回実施するとともに、実施記録を作成し、課題を明らかにして次回の訓練につなげている。 職員の多くが事業所の近隣に居住していたり、地区の婦人消防団員として活動したりしているほか、法人代表が同一敷地内に居住しているため、災害時でも早急に対応ができる体制を整えている。 緊急時に近隣住民の井戸水を提供してもらう約束をしているが、避難訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。 米やレトルト食品、飲料水、カセットコンロなどを備蓄するとともに、玄関に避難持ち出し袋を備えている。	実際に避難が必要になった場合には職員以外の協力も必要であることを認識し、近隣住民にねばり強く避難訓練への参加を呼びかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人で生活歴や家族環境を把握することで、人格を尊重し言葉掛けにも注意している。	職員はアセスメントで利用者の生活歴を把握するとともに、利用者の気持ちを尊重するために個室に移動して話を聴く機会を設けている。 排泄や入浴を促す時には耳元で声をかけるよう配慮している。 個人情報に関する書類は事務所の鍵のかかる書棚に保管している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの希望を聞き、自己決定出来る様に、声掛けや会話をしている。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家族での生活・本人の希望を把握し、その日の体調を考慮し、支援している。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族の希望を聞き、施設内での理容を月1回行っている。				

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前後に、テーブル拭きや後片付けをしていただいている。利用開始時に嗜好をきき、毎食のメニュー票を作成している。また、食残が多きときは、利用者の意見を真摯に聞き、メニューの検討をしている。食器の検討もしている。春は花見・秋は紅葉狩と証して外食を職員としている。	利用者は食事の準備や後片付けなど、できることは役割を持って取り組んでいる。食事が楽しみなものとなるよう、利用者と職員が一緒におやつ作りをしたり、花見や公園めぐりの際は、喫茶店に立ち寄ってお茶を飲んだり、お菓子を食べる機会を設けたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量を毎食チェックしている。水分は、来館時・食事時・10時・15時等にこまめに取れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず個々の利用者のADLに準じた口腔ケアを行っている。その際、口腔内の状況や入れ歯の状況などを観察している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレに行くときの声掛け・誘導を行い、オムツが必要な方でも、トイレ便器で自力で排泄出来るようになるように、排泄リズムに合わせた支援を行っている。	職員は排泄チェック表を基に一人ひとりの排泄のタイミングを計りながらトイレ誘導をしているほか、トイレでは自立した排泄ができるような声かけと介助に努めている。トイレは車いす対応で広く、手摺も設置されており、介助が必要な状況でも排泄の自立に向けた支援ができるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄誘導時に自己による排ガスを促したり、水分摂取の工夫をしたり、体操・散歩等による運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個人の体調や希望を聞き入れ、快く安心して入浴が出来るように心がけている。	通いの日は毎回、泊まりの場合は2日おきに入浴ができる体制となっており、利用者の心身の状態に合わせて、必要に応じて足浴や清拭を取り入れたりして支援をしている。 入浴に対して負担感などを感じている利用者でも無理なく入浴ができるよう、一人ひとりに合わせた声かけを工夫している。 利用者が入浴を楽しめるよう歌を歌いながら入浴したり、菖蒲や柚子、入浴剤を使用したりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家庭での生活と同じように、休息する時間を一人ひとりが取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状や薬の目的を理解し、症状の変化は、カンファレンスや申し送りでも話し合いをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの家庭での役割や今まで生活してきた歴史を把握し、職員一同に共通認識してもらいながら、家事の手伝いや草木の世話ゲーム参加などを一緒に行ってもらっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	不定期であるが、数人での散歩・ドライブに出かけたりしている。また帰宅時に遠回りして地域の様子を見せたり、近所のスーパーに立ち寄り食べたいものを購入できるように日常的な支援をしている。	日常的に庭先に出て散歩ができるよう支援をしているほか、気分転換が図れるように花見や紅葉狩りなどに出かけられるよう支援している。 利用者は家族等の協力を得ながらカラオケや衣料品の買い物に出かけたり、職員が同行してコンビニエンスストアで食品を買ったりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的には、認知症の方が多く、金銭を所持することは利用者間のトラブルの原因となるため、館内には持ち込まないこととなっている。しかし、家族及び利用者本人の意向によりどうしても持参したいと希望されるときは、持参し事務所で一時保管し、帰宅時には必ず返却している。また、買い物時は支払いの支援をする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいときには、自由に事務所の電話を利用している。利用者自身で手紙をやり取りの希望があるときは、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な空間を心がけており、利用者が集まるホールに面し、オープンカウンターの厨房を設置し、調理時の音や匂い作っている姿などが感じられるように工夫をしている。また、外には季節が感じられる花や野菜を作り、収穫する季節がわかるようにしている。トイレも車椅子対応ができる広さがあり、安心して使用できる手すりを設置している。廊下にも手すり設置し安心して歩行出来るように配慮している。	居間や長い廊下にはミニソファがたくさん並べられており、利用者が思い思いの場所で寛ぐことができるようになっている。 壁面に利用者と職員が制作した季節感のある折り紙の作品を掲示したり、七夕など季節の飾り付けを行ったりして、居心地のよい空間づくりをしている。 業務用の空気清浄器を設置して、感染症対策をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の中にソファを置き、利用者が1人になり寛げることが出来る場所を設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊時には、自宅の居室を参考にしながら、ベッドの向きを考慮し、本人が戸惑うことがないように環境を整備し、自宅と同様に休まれるように工夫している。本人の希望によっては、畳の部屋を提供している。	職員は利用者や家族等と話し合い、自宅ですべて使っていた毛布や枕などを持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。 利用者が安心して過ごせるように、泊まりの部屋とトイレの位置関係が自宅と同じになるよう考慮しながら泊まりの部屋を選択している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所・宿泊時での自室がわかるように矢印や居室前の名前の掲示をしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能型居宅介護施設豊友館

作成日 平成25年9月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災及び地震災害を想定した避難訓練を2回/年実施しているが、避難訓練時に近隣住民の参加を得るまでには至っていない現状がある	地域住民参加型の避難訓練を想定	地区社協の方の現在避難訓練のことで協議中である。4月と11月の2回/年の避難訓練時の参加を検討していただきたくため、陳情中である。	6ヶ月
2	26	「訪問」「泊り」「通い」の各サービスと連動させながら介護計画を作成しているが、個別計画の充実までには至らない現状がある。	介護計画に基づく個別計画の充実	介護計画の充実を図りながら、個別計画を職員全員で立てられるように研修や検討を行う。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。